

ottobock.



CE

アバンギャルド XXL 2 ご利用のてびき

1 製品の説明

1.1 機能

車いすは、1名が座面に座って移動する事のみを目的としています。

車いすは屋内と屋外の両方で、固い地面の上で使用できます。

1.2 製品概要



耐荷重：180 kg

1	プッシュハンドル	7	フットプレート
2	バックサポートカバー	8	キャスト
3	サイドパネル	9	キャストフォーク
4	クッション (オプション)	10	クイックリリース
5	座シート	11	ブレーキ
6	クロスブレース	12	リヤホイール

2 使用目的

製品の安全な仕様は、この「取扱いの手引き」に含まれる情報に従った使用する場合にのみ保証されます。利用者は、事故の無いように操作を行う責任があります。

2.1 車いすの使用について

車いすは、歩行能力に一時的または永続的な制限があり、歩行不能または立位が困難な方が、本人または介助者によって屋内及び屋外で日常的に使用することを目的としています。

この製品は身体の解剖学的構造（身体寸法や体重など）が製品の適応範囲内で、皮膚組織に損傷の無い方の仕様に適しています。

車いすには、製品オーダーフォームに記載されているオプションのみが使用できます。オットーボックスは他メーカーの医療機器または付属品の組み合わせによって生じる不具合や事故には責任を負いません。他社製品との併用はご利用者の責任となります。

2.2 適応範囲

軽度または顕著な移動制限のある方

2.3 禁忌事項

2.3.1 絶対的禁忌

不明

2.3.2 相対的禁忌事項

身体的、または精神的要件を満たしていない場合

3 安全に関する注意事項

3.1 安全に関する注意事項の記号

 警告	事故や障害の可能性のある重大な危険性に関する警告
 注意	事故や障害の可能性のある危険性に関する警告
お知らせ	技術的損害の可能性に関する警告

3.2 総合的な安全上の注意事項

3.2.1 使用に関する安全上の注意

- ▶製品の使用を練習する際は、必ず介助者が立ち合いのもと行ってください。この場合、介助者は製品の使用方法を理解し、製品の操作に責任を負い、サポートを行ってください。
- ▶製品は、その耐用期間中、お住いの国の法律にしたがって使用してください。
- ▶耐荷重を超える人・物を載せて使用しないでください。
- ▶特定のアクセサリやオプションが荷重に含まれることも注意してください。
- ▶荷物（バックパックなど）を取付けると、安定性に悪影響を及ぼす可能性がありますので、製品に追加の荷重を吊り下げないでください。
- ▶認知障害のある方が製品を使用をする際には、絶対に目を離さないでください。ベルトや小部品等が緩んだ際に、圧迫や窒息を起こす危険性があります。
- ▶梱包材は、環境に配慮した方法で廃棄してください。また、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
- ▶製品を持ち上げる際は、確実に固定されたところを持ってください（本体フレームなど）
- ▶技術者以外の方が、本体のセッティングを変更しないでください。本てびきの「製品の使用について」において、使用者向けに説明されている設定のみが変更可能です。問題が発生した場合は、技術者やご購入の販売店に連絡してください。
- ▶故障や不具合、その他の危険性が検出された場合、製品の使用を直ちに中止してください。車椅子の動作がコントロールできなかつたり、納品時の状態から明らかに異なるような音やにおいが発生した場合も同様です。直ちに購入された販売店に連絡してください。
- ▶車いすの乗降時は、必ずブレーキをかけてください。
- ▶車いすの乗降時に、フットパネルに乗らないでください。
- ▶車いすの仕様によっては、使用者の操作性を高めるために、車いすが後方に傾きやすいセッティングとなっている場合があります。身体状況や精神状態が変化した場合、その設定で使用できなくなる場合があります。ご購入の販売店に直ちにご連絡ください。

- ▶車いすに乗った状態で前かがみになる場合（移乗時や、靴の紐を結ぶときなど）は、車いすの安定性が最大になるようにしてください。そのためには車いすを後方に押し、キャストが前方を向くようにしてください。
- ▶利用者は、物に手を伸ばすときに、シートから大きく傾き過ぎないようにしてください。
- ▶製品には、使用者の手などを挟んだりする可能性のある可動部品が含まれています（バックサポートの角度調整やブレーキなど）。可動部の間には手を入れないでください。
- ▶医療機器による診断・検査や治療を行う場合、車いすがそれらの医療機器に不適切な作用を及ぼす場合があります。その場合、診断・検査や治療は医療機器に定められた条件下で行ってください。
- ▶車いすを極端な温度環境に置かないでください（長時間の直射日光、サウナ、暖房器具の近く、長期間の極寒環境など）。
- ▶極端な温度環境で製品に触れると、低体温症や火傷を起こす恐れがあります。
- ▶車いすの使用前および使用中に、製品と接触している部分の皮膚に損傷が無いかを確認してください。
- ▶皮膚に過度の負荷がかかると、皮膚の損傷や瘡が生じる可能性があります。皮膚の状態の確認と圧力分散には細心の注意を払って下さい。皮膚に損傷が生じた場合、直ちに使用を停止し、医療従事者にご相談ください。
- ▶座面やバックサポートのカバー、クッション、パッド等に損傷が生じた場合は、直ちに交換してください。
- ▶泥や土、塩分は車いすやパーツ（ベアリングやジョイントなど）を損傷させる可能性があります。
- ▶全ての火気、特に火の付いたタバコをシートやバックサポートカバー、クッションに近づけないようにしてください。

3.2.2 一般事項

- ▶最初は平らで広い所で練習を行ってください。
- ▶介助者の補助を受けながら、重心の変化（坂道の上下りや段差越えなど）が車いすの挙動にどのように影響するかを確認してください。
- ▶可能であれば、横方向からの移乗を推奨します。
- ▶駆動時は、リヤホイールとブレーキの間、およびリヤホイールとサイドパネルの間に手を入れないでください。
- ▶駆動時は、リヤホイールのスポークに手を触れないでください。
- ▶ハンドリムを使ってスピードをコントロールする際は、ハンドリムが発熱し、やけどを起こす可能性があることに注意してください。高速で車いすを操作する際には、グローブを着用してください。
- ▶状況に応じてスピードを調整し、危険な場所、下り坂、段差を超えるときなどは適切にスピードを落としてください。
- ▶後方への進行は、短距離で平坦な路面でのみ行ってください。
- ▶介助者によって段差越えを行う場合は、プッシュハンドルのみを使用してください。必要に応じてオプションのティップアシストも使用してください。介助者は、適切な姿勢で両手でしっかりとプッシュハンドルを握る必要があります。
- ▶夜間など暗い所で車いすを操作する場合は、明るい色の反射材付きの衣服を着用してください。またはライトなどを着用してください。車いすについている反射材がしっかり見えるかどうか、確認してください。
- ▶公共個通期間を使用する場合は、ご使用のエリアで適用されている法的要件や公共交通機関の安全に関する指示を常に順守してください。
- ▶公共交通機関する場合では、常設の座席をご利用ください。車いすを座席として使用する必要がある場合は、指定された車いす用スペースと備え付けの安全装置を利用し、常に所定の位置に確実に固定されていることを確認してください。

段差・縁石・線路などへの対応

- ▶利用可能な設備（スロープや段差解消機）がある場合は、使用をお勧めします。そのような設備がない場合は、補助を依頼してください。
- ▶障害物を横断する場合には、前輪を上げてください。車いす操作の経験が十分でない場合は、転倒防止装置を使用するか、介助者の補助を受けて安全を確保してください。
- ▶障害物には直角に進入してください。
- ▶高い段差を飛び降りないでください。
- ▶障害物を超えるときは、車いすから身を乗り出さないでください。
- ▶エスカレーターは使用しないでください。
- ▶踏切では、レールと道路の隙間にキャストがはまらないようにしてください。

スロープへの対応

- ▶製品ごとに設定された最大傾斜の範囲内で、段差越えやスロープを走行するようにしてください。アバンギャルド XXL が使用可能な最大勾配は 7° (12.3%) です。
- ▶スロープを走行中に、段差越えを行わないでください。
- ▶スロープを時や段差越えの場合は、座面角度を水平に近づける必要がある場合があります。スロープを下るときは、座面角度を少し後ろに傾けることをお勧めします。
- ▶スロープや傾斜面で、車いすの乗り降りをしないでください。
- ▶使用者が車いすに座った状態で、スロープや傾斜面で停車しないでください。
- ▶スロープや傾斜面を降りる際には後ろ向きに進まないでください。介助者が操作する場合で、短時間スロープを使用する場合（車から降りる場合など）は除きます。

3.3 副作用について

車いすの使用に際し、下記の様な副作用が起こる場合があります。

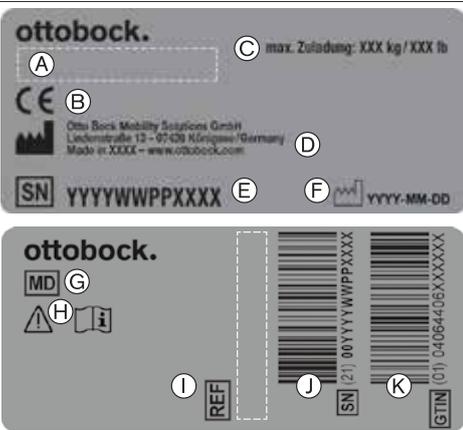
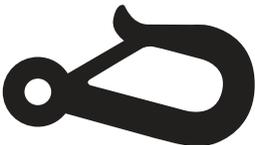
- ▶首や筋肉・関節の傷み
- ▶循環機能障害・褥瘡

このような副作用が発生した場合は、医療従事者（医師・セラピスト）にご相談ください。

3.4 ラベル表記について

製品名は、製品に張り付けられたラベルによって識別できます。スペアパーツや付属品について問い合わせや注文をする場合、特にシリアルナンバーが必要になる場合があります。

ラベルは、クロスブレースまたはフレームに貼付けられています。

ラベル		意味
	A	製品名
	B	CE マーク
	C	最大耐荷重
	D	メーカー情報
	E	シリアルナンバー
	F	製造年月
	G	医療機器マーク
	H	警告（使用前に取扱いのてびきを読む必要がある事。特に安全に関する事項を遵守する事）
	I	製品の品番
	J	シリアルナンバー
	K	Global Trade Item Number
		福祉車両等に車いすを固定する際、固定用ハーネスやベルトを取付ける固定点。本製品は、このマークが製品の固定点に取り付けられている場合にのみ、身体に不自由のある方を輸送するための車両の座席として承認されます。固定に関する詳細は、「7.21 福祉車両での使用」を参照してください。

4 製品の配送

4.1 状態

- ・ 車いす本体はすぐに使用できる状態で配送されます。（リヤホイール・フットサポートは取り外されている場合があります）
- ・ 取扱いのてびきが同梱されています。

4.2 オプションについて

車いすにはご注文内容に応じてオプションが取り付けられています。それぞれのオプションの使用方法については、「7. 製品の使用について」をご参照ください。

4.3 保管

4.3.1 日常使用時の保管について

外部環境の影響から保護されるように保管願います。

4.3.2 長期間使用しない場合の保管について

製品は乾燥した場所で保管してください。製品を分解する必要はありません。

長期間動かさなかった場合やタイヤ・キャストが加熱した場合、タイヤが変形し復元しない場合があります。また、PU タイヤ（ノンパンクタイヤ）の場合、長期間使用しない場合にブレーキを解除してください。ブレーキをかけた状態で保管すると、タイヤが変形する可能性があります。

5 製品を使用する準備

5.1 組立



注意

露出した挟み込み箇所

不適切な場所を持って操作すると、手を挟む危険性があります。

▶製品を折りたたむ際や開く際は、指定の場所を持って操作してください。



注意

使用前に準備が整っていることを確認しない

不適切な調整による転倒や落下の危険性

▶製品を初めて使用する際は、指定した設定の通りになっていることを確認してください。

▶リヤホイールの取付後は、毎回正しく取付けられていることを確認してください。クイックリリース車軸が確実に取付けられていることを確認してください。

▶転倒に対する安定性やブレーキが確実に効くことを確認して下し垂。

▶タイヤの空気圧を確認指定下さい。適正空気圧やタイヤの側面に表示されています。また、左右のタイヤの空気圧を同じにしてください。

情報

分解・輸送については「7.20 分解と輸送」をご参照ください。

車いすを使用可能な状態にするには、いくつかの簡単な手順を行うだけです。

1) リヤホイールを車軸マウントに取付けます（図 2）。

→クイックリリース車軸のボタンを押しながら

→リヤホイールを車軸マウントに取付け、ボタンを離します。

→ボタンを離した状態でリヤホイールを引っ張り、外れないことを確認してください。

2) 車いすを広げます。

→固定ストラップを外します（図 3）

→手のひらで、車いすが開くように押して開きます（図 4）

→座パイプが樹脂製のクリップにはまるように、手のひらで座面の端を下に押ししてください。

3) レッグサポートを取付けます（外している場合）。フットプレートを開きます。1 枚式フットパネルの場合は、フットパネルの端がレッグサポートの受けにはまっていることを確認してください。2 枚式フットパネルの場合は、左右のフットパネルを繋ぐ金具がはまっていることを確認してください。

4) クッションをセットします。



6 製品の使用

6.1 全幅について

車いすを広げた状態の全幅を確認し、例えば避難経路を通れるかどうかなどを確認してください。

6.2 移乗について

使用者は、様々な移乗方法から、セラピストと相談の上、適切な方法を選ぶことができます。原則として、本体フレーム、シート、サイドパネルを移乗のためのサポートとして使用することができます。

一人で移乗ができない場合は、必ず介助者の補助のもと移乗動作を行ってください。必要に応じてトランスファーボード等の補助具を使用してください。

6.3 レッグサポート／フットパネル

レッグサポートとフットパネルは利用者の下腿をサポートするものです。レッグサポートの高さやフットパネルの角度は、利用者の身体状況に合わせて、技術者によって調整されます。

1 枚式フットパネル（図 6）

フットパネルの奥行は 125mm または 160mm となります。

2 枚式フットパネル（図 7）

左右のフットパネルは、中央のジョイントによって連結されます。フットパネルの奥行は 160mm となります。



ロッキングデバイス (図 10)

ロッキングデバイスは、1 枚式フットパネルが意図せず外れてしまわないように固定するオプションです。

調整可能サイドストッパー (図 9)

サイドストッパーは足部がフットパネルから脱落しないようにする金具です。金具位置の調整が可能です。

ヒールストラップ (図 11)

ヒールストラップは使用者の下腿をよりサポートし、足部がフットパネルから落ちるのを防ぎます。



6.3.1 レッグサポート・フットパネルの操作

フットパネルを開く・たたむ際には、フットパネルの端を持ってください。

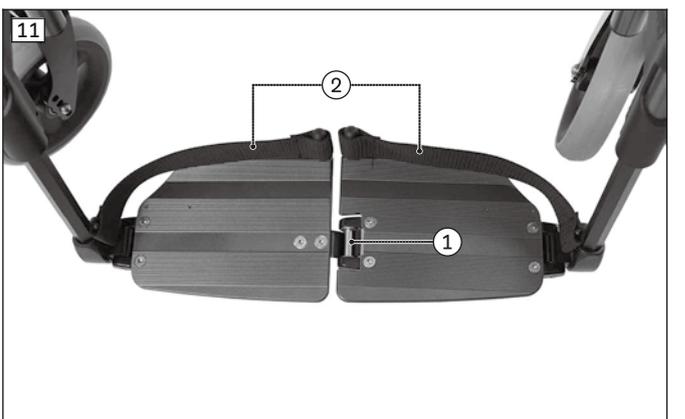
→ロッキングデバイス付のフットパネルの場合。レッグサポート外側のリングをひくことで、フットパネルのロックが外れ、折りたたむことができます (図 10) フットパネルを開いた際は、ロックがかかっていることを確認してください。

→ 1 枚式フットパネルの場合

フットパネルの端が、レッグサポートの受け具にはまっていることを確認してください。

→ 2 枚式フットパネルの場合

中央のジョイントが連結されていることを確認してください (図 11)



6.3.2 レッグサポートの取外し／取付け

レッグサポートの取外し

- 1) フットプレートを上方にあげます。
- 2) リリースレバーを引きます (図 12 矢印①)
- 3) レッグサポートを上方に引き抜いて取り外すことができます。
→フロントフレームオフセットの場合は、レッグサポートを 90°外側に開いて上方に引き抜いてください (図 12 の②)。取付ける場合もその位置で行います
→フロントフレーム ストレートの場合は、リリースレバーを引くだけで取り外すことができます。

レッグサポートの取付け

- 1) レッグサポートをフレームに差し込みます。
→フロントフレームオフセットの場合は、レッグサポートを 90°外側に開いた状態でフレームに差し込んでください。(図 12 の②)
→フロントフレーム ストレートの場合は、上方からレッグサポートをフレームに差し込んでください。
- 2) レッグサポートをまっすぐにし、ロックされたことを確認してください。
- 3) フットパネルを開いてください。



6.3.3 カーフストラップ

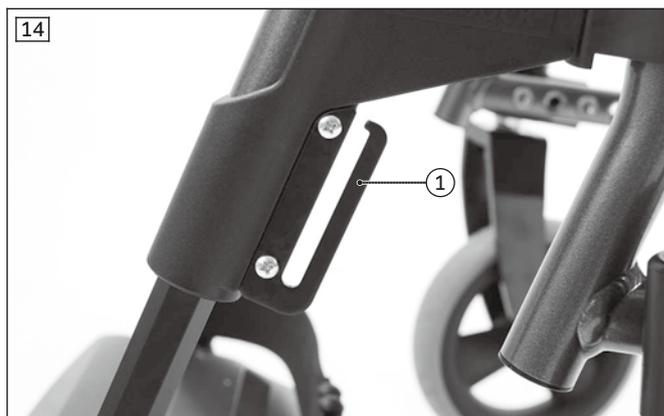
カーフストラップ (図 13) は、ユーザーの下腿が後方に脱落するのを防ぐベルトです。カーフストラップは簡単に着脱ができます。

カーフストラップの取付け

- 1) 両端の面ファスナーを開きます。
- 2) カーフストラップをレッグサポートのフック (図 14-1) に通します。
- 3) 適度な長さでカーフストラップを折り返し、面ファスナーで長さを固定します。

カーフストラップの取外し

- 1) 両端の面ファスナーを開きます。
- 2) レッグサポートのフックからカーフストラップを外します。



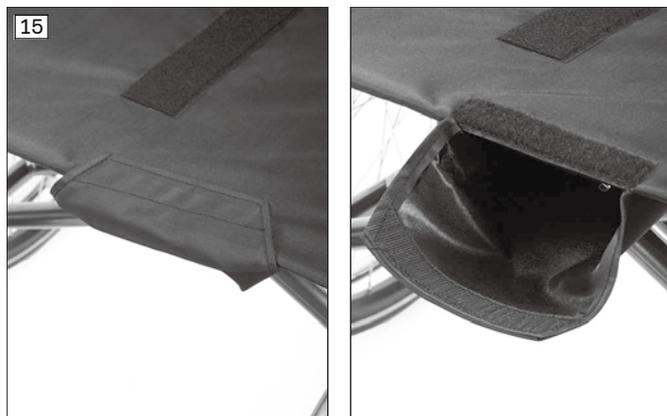
6.3.4 レッグサポート・フットパネルの調整

さらに調整を行いたい場合は、ご購入された販売店にご相談ください。

6.4 座シートとバックサポートカバー

車いすには座シートとバックサポートカバーが装着されています。座シート上面には面ファスナーがあり、クッションを固定することができます。使用するクッションについては、医療関係者にご相談ください。

オプションの「ビジネスシート」を選択すると、座シート下にポケットが追加されます（図 15）



6.5 バックサポート



警告

背角度調整機能付きバックサポートの不適切な使用。

転倒防止装置が無い場合後方に転倒する場合があります。

▶バックサポート角度の設定によっては、重心が移動し後方に転倒しやすくなります。必ず転倒防止装置を取り付けて使用してください。

▶公道で使用する場合は、標準のストレートタイプをご使用ください。

本製品には、固定式のストレートタイプ、またはオプションで背角度調整機能付きのバックサポートを取付けることができます。

バックサポートパイプの高さ調整

バックサポートパイプは 25mm 刻みで高さを調整することができます。

背角度調整機能付きバックサポート（図 16）

オプションの背角度調整機能付きバックサポートを選択すると、背角度を -9° ～ $+15^{\circ}$ （ 6° 刻み）で調整できます。



6.6 アームサポート付サイドパネル（オプション）

サイドパネルは使用者とその衣服を汚れから保護します。アームサポート付サイドパネル（オプション）を選択すると、上肢の支持も得ることができます。

6.6.1 アームサポート付サイドパネルの取外し

移乗や輸送に便利のように、アームサポート付サイドパネルは取り外しが可能です。

注意

サイドパネルの誤った使用方法

誤った使用により、ケガや破損の恐れがあります。

▶サイドパネルを下した際に、固定のロック音になる事を確認してください。

情報

アームサポート付サイドパネルと背角度調整機能付バックサポートと併用した場合、背角度調整範囲は $-3^{\circ} \sim +15^{\circ}$ になります。

跳ね上げと取外し

- 1) リリースレバーを握ります (図 17)
- 2) サイドパネルを約 90° 後方に跳ね上げます。
- 3) 跳ね上げたサイドパネルを、バックサポート方向 (内側) に向かって回します。この時、上方にサイドパネルを引くと、取り外すことができます (図 18)

取付け

- 1) バックサポートに沿うようにサイドパネルを持ち、サイドパネルのジョイントを本体フレームのブラケットに差し込みます。
 - 2) サイドパネルを前方に回転させ、さらに下側におろします。
 - 3) サイドパネル前方のソケットを本体フレームの受けにはめてください。この時、カチッと音がすることを確認してください。
- ※最後に、リリースレバー (図 17) を握らずに、サイドパネルを跳ね上げるように引き上げ、固定されていることを確認してください。



6.6.2 アームパッドの高さ調整

工具無しで、アームサポートの高さを調整することができます。

- 1) アームパッドのステイの穴の中にレバーがあります (図 19-1)。このレバーを上方に引くと、アームパッドの高さを調整することができます。
- 2) 希望の高さで、レバーを離すと、ロックがかかります。レバーを離した状態で、上または下に軽く動かし、ロックがかかっていることを確認してください。



6.7 プッシュハンドル

プッシュハンドルは介助者による車いすの移動や操作を簡単にします。

オプションによっては、介助者のニーズに合わせて簡単に高さの調整が可能です。

6.7.1 高さ調整可能プッシュハンドルの調整 (図 21)

- 1) クランプレバーを反時計回りに緩めます。
- 2) プッシュハンドルの高さを調整します。
※左右のプッシュハンドルの高さが同じになるようにしてください。
- 3) クランプレバーをしっかりと締め直します。



6.7.2 後オフセット プッシュハンドルの調整

- 1) クランプレバーを緩めます※回す必要はありません (図 23-1)
- 2) ハンドル下端のボタン (図 23-2) を押しながらプッシュハンドルを引き抜くと、外すことができます (図 23-3)。
- 3) 取付ける際は、ボタンを押しながらハンドルホルダーに差し込んでください。
- 4) 希望の高さでクランプレバーを締めて、固定してください。(図 23-1)
※左右のプッシュハンドルの高さが同じになるようにしてください。



6.8 スタビライザー

スタビライザーは左右両側のプッシュハンドルを繋ぎ、車いす本体の安定性を高めます。特に体重の重い使用者のケースに有効です。車いすを折りたたむ際には、片方のみを外す必要があります。

※スタビライザーは、車いすの操作ハンドルとしては使用しないでください。介助者が車いすを操作する場合は、必ずプッシュハンドルを握って下さい。

スタビライザーを外す

- 1) スタビライザーバーの端がフック状になっている側を確認し、そのノブネジを緩めます (図 25-1)。
- 2) スタビライザーバーを下に下げます (図 25-2)。

スタビライザーをセットする

- 1) スタビライザーを上げ、フックをノブボルトにセットします。
- 2) ノブボルトを締め直して固定します。



6.9 リヤホイール



警告

リヤホイールの不適切な組付け

リヤホイールの脱落による転倒・転落の危険があります。

- ▶リヤホイールを取付けた場合は、適切に取付けられていることを都度確認してください。クイックリリース車軸は車軸マウントに確実にロックされている必要があります。



警告

タイヤの不適切な管理

駆動時の摩擦不足、ブレーキ機能の低下による操作性の低下による事故・転倒

- ▶タイヤの適正空気圧を保ってください。
- ▶適正空気圧はタイヤの側面に記載されています。
- ▶両方のタイヤの空気圧が同じであることを確認してください。
- ▶タイヤの溝の深さが十分に残っていることを確認してください。

車いすは、リヤホイールのハンドリムの操作によって移動、操縦、スピードのコントロール、停止を行います。輸送を簡単にするために、クイックリリース車軸でリヤホイールを簡単に着脱することができます。

6.9.1 リヤホイールの取外しと取付け



注意

リヤホイールの誤った脱着

不適切な取付けによる転倒・転落の危険性。

- ▶使用者が車いすに座った状態で、リヤホイールの着脱は出来ません。
- ▶リヤホイールを着脱する場合は、車いすを固い地面に置いてください。
- ▶リヤホイールを着脱する際は、車いすが転倒したり転がったりしないように固定して下さい。
- ▶リヤホイールがしっかりと車軸マウントにロックされていることを確認してください。横方向（クイックリリースの軸方向）の遊びが大きすぎる場合には、購入された販売店にご相談ください。

- 1) ブレーキを解除します
- 2) 親指でクイックリリース車軸のボタンを押します（図 26-1）
- 3) リヤホイールを取付け／取外します。

※取付け後、ボタンを離れた状態でリヤホイールが外れないことを毎回確認してください。



6.9.2 スポークプロテクター

スポークプロテクターは使用者の指がスポークに絡まってけがをすることを防ぎます。

6.10 キャスターとキャスターフォーク



警告

キャスターまたはキャスターフォークの故障

車いすの転倒による使用者の転倒・転落による重症の恐れがあります。

- ▶キャスターとキャスターフォークに損傷が無いか、常に確認してください。
- ▶キャスターの車軸を常時清掃し、必要に応じて（特に動きが固い場合）注油してください。
- ▶車いすの操作性が変化して元に戻らない場合は、購入された販売店にご相談下さい。

キャスターとキャスターフォークが共に適切であれば、車いすの操作性が保たれ、より確実に移動することができます。適切なキャスターとキャスターフォークは、セラピストや技術者等により適切なものが選択されます。

高床アダプター（図 27）

前座高を通常より 35mm 高くすることができます。これにより、レッグサポートの調整範囲が広がります。また、キャスター取付位置が外側に広がるため、下肢駆動の際のスペースが広がります。

低床アダプター（図 28）

前座高を通常より 35mm 低くすることができます。また、キャスター取付位置が外側に広がるため、下肢駆動の際のスペースが広がります。



6.11 ブレーキ



警告

ブレーキの不適切な使用

急ブレーキによる転落や車いすの転倒、手の怪我の恐れがあります。

- ▶ブレーキを、制動ブレーキとして使用しないでください。

- ▶ブレーキをかける際は、必ず両側かけてください。
- ▶平坦でない場所で車いすを置くときや、車への乗りこみ（移乗）の際は、必ずブレーキをかけて車いすが動かないようにしてください。
- ▶車いすの操作中は、ブレーキとタイヤの間に指を入れしないでください。
- ▶ブレーキの位置が適切に調整されていることを確認してください（ブレーキパッドとタイヤ表面との隙間は 5mm 以下としてください）。
- ▶ブレーキの再調整については、購入した販売店にご相談ください。

ブレーキはホイールを固定し、車いすが動くのを防ぐ装置です。

6.11.1 ブレーキの使用方法

- 1) ブレーキレバーを前方に倒すと、ロックがかかります（図 30）。
- 2) ブレーキレバーを後方に引くと、ブレーキが解除されます。

ブレーキ延長レバー（図 31）

ブレーキ延長レバーを使用すると、より軽い力でブレーキの操作が可能です。移乗の際などに邪魔になるときは、取り外すことができます。



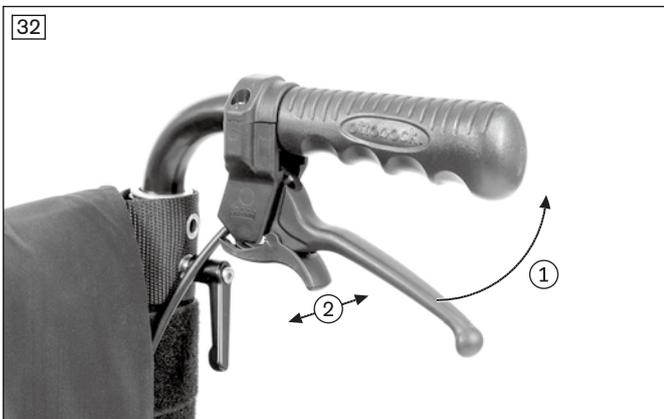
6.11.2 ドラムブレーキ

ドラムブレーキは、介助者が操作できます。プッシュハンドルのレバー操作で、車いすを簡単に安全に減速させることができます。

ドラムブレーキの操作

- 1) レバーを握ります（図 32-1）
- 2) この時、ロック（図 32-2）を下側に押し、レバーを固定することができます。
- 3) ロックを再度操作するか、レバーを再度握ると、ロックが解除されます。

※ドラムブレーキホイールも、クイックリリースによる着脱が可能です。



6.12 フレームアクセサリー



警告

転倒防止装置の不適切な調整

製品の誤使用による転倒・ユーザーの転落

▶ 介助者が車いすの段差越えをサポートする場合、転倒防止装置を解除する必要があります。これにより、転倒防止装置が段差に接触するのを防ぐことができます。

▶ 介助者は、段差越えの後に転倒防止装置を作動させる必要があります。



警告

転倒防止装置が作動していない

安全装置の不適切な動作による転倒、ユーザーの転落

▶ 障害物や坂道を走行する前に、転倒防止装置が作動していることを確認してください。

▶ 転倒防止装置を作動させた際、ロック音を確認してください。

▶ 大腿切断ユーザーの場合は、転倒防止装置の使用を特に推奨します。



警告

転倒防止装置の不適切な調整

不適切に調整された転倒防止装置により、転倒する危険性があります

▶ 転倒防止装置の調整は、販売店の技術者によって行ってください。

6.12.1 転倒防止装置の作動・解除

転倒防止装置が取り付けられている場合は、常に作動させてください。

障害物を登る場合は、転倒防止装置のキャストが地面に接触します。

障害物を降りる場合は、転倒防止装置の破損を防ぐため、転倒防止装置を解除してください。

転倒防止装置の作動

1) 転倒防止装置を手または足で押し下げます (図 35-1 または図 36-1)

2) 転倒防止装置を後方に 180°回して、固定されたことを確認してください (図 35-2 または図 36-2)

転倒防止装置の解除

1) 転倒防止装置を手または足で押し下げます (図 37-1 または図 38-1)

2) 転倒防止装置を前方に 180°回して、固定されたことを確認してください (図 37-2 または図 38-2)





6.12.2 ティップアシスト

ティップアシストを使用すると、介助者による段差越えの解除が容易になります。

ティップアシストは、フレーム後方に組み込まれています (図 39)

- 1) 段差を越えるときは、片足をティップアシストに乗せ、押し下げます。
- 2) プッシュハンドルを押して車いすを傾けます。



6.13 フロントフレーム

本製品は 2 種類のフロントフレーム形状があります。

ストレート : 本体フレームとフロントフレーム・レッグサポートがまっすぐに揃います。

内オフセット 2cm : 本体フレームと比較して、フロントフレーム・レッグサポートが内側に 2cm 狭くなります。

6.14 ラップベルト



警告

- 使用者が車いすに乗ったまま車に乗車した際、車いすに付属しているベルト類をシートベルトとして使用することは禁じられています。
製品の誤使用による転倒・ユーザーの転落
- ▶製品の不適切な取り扱いにより重傷を負うリスクがあります。どのような場合も、車いすに不足しているベルト類を安全装置の一部として使用しないでください。
 - ▶車いすに付属しているベルトは、使用者の補助的なサポートのみを目的としていることに注意してください。



注意

- ラップベルトの不適切な取付
- 誤った調整による不適切な姿勢のサポート、身体へのダメージおよび転倒の恐れがあります
- ▶販売店の技術者によって設定されたベルトを調整しないでください。調整が必要な場合、または調整に問題がある場合は、販売店の技術者に連絡してください。
 - ▶利用者が怪我をしないようにラップベルトはぴったりとフィットする必要がありますが、きつ過ぎないように注意してください。
 - ▶ベルトの設定を定期的にチェックしてください。身体寸法の変化や病気、服装によっても調整が必要になる場合があります。

注意

不適切な使用

製品の不適切な使用による転倒・転落

- ▶ 車いすにラップベルトが取り付けられている場合、乗車中は常にラップベルトで体を固定してください。
- ▶ 移乗の際にのみ、ラップベルトを開いてください。
- ▶ 使用者の認知能力によって意図せずベルトを外してしまう可能性がある場合は、使用者を監督者無しで放置しないでください。

ラップベルトの使用方法

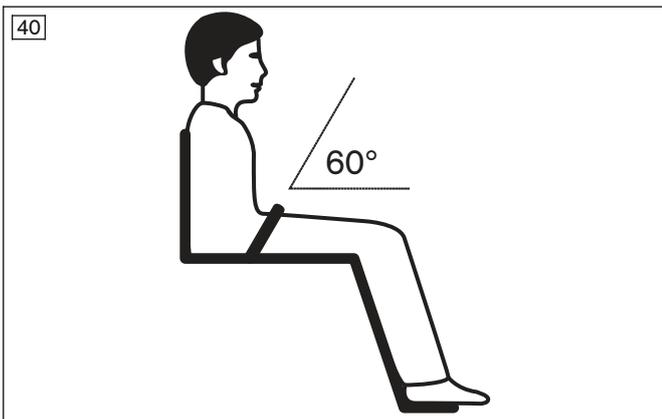
- 1) バックルを開きます。
- 2) 利用者の可能な範囲で背中を起こし、奥まで座ります。
- 3) バックルを閉じます。
- 4) ラップベルトは、シートに対して約 60°の角度になる事が理想です。ベルトは、腹部ではなく大腿の上側で、骨盤のすぐ前側を通るようにしてください (図 40)

※ラップベルトが腹部の前を通らないようにしてください。

※使用者は、なるべく正面を向いてまっすぐ座るようにしてください。

※ラップベルトが緩すぎると、使用者が前にずれたり滑り出したりすることがあります。

※ラップベルトが利用者本人以外の箇所 (アームサポートなど) を通ると、ラップベルトの機能が失われます。



6.15 トランスポートホイール

注意

リヤホイールを取り外すと、通常のブレーキは機能しません

ブレーキ機能の喪失による事故・転倒の危険があります。

- ▶ トランスポートホイールの使用中は、介助者のみがブレーキをかける (車いす止める) ことができる事に留意願います。

注意

不適切な高さ設定

左右のトランスポートホイールの誤った設定により座面が傾くと、転倒または落下の危険があります。

- ▶ トランスポートホイールの高さは、常に左右で同じにしてください。

トランスポートホイール (図 41) を使用することで、狭い通路でも移動が可能になります。この際、介助者が車いすを押す必要があります。

6.15.1 トランスポートホイールの使用

使用する前に、両側のトランスポートホイールが同じ高さに設定されていることを確認してください。

- 1) リヤホイールを取り外します。可能な限り、この作業は利用者が車いすに座っていないときに行ってください。利用者が車いすに乗っている場合は次の手順に従ってください。

2) 一人目の介助者が車いすを安定した位置で保持し、リヤホイールへの荷重を軽減します。

3) 二人目の介助者が、左右のリヤホイールを一つずつ外します。

→これで、トランスポートホイールで移動が可能になります。



6.16 杖入れ

杖入れを使用すると、クラッチや杖などを車いすに取付けることができます。



6.17 トレイ



警告

製品の燃焼

不適切な使用方法による火傷

▶ トレイは可燃性の材料を使用しています。火気に近づけると燃焼する可能性があります。特に裸火の近くでは細心の注意を払ってください。

▶ あらゆる火気から遠ざけてください。



注意

不適切な調整

取付位置が適切でないと、利用者が挟まれたり圧迫されることがあります

▶ トレイをスライドさせるとき、利用者がトレイと車いすの間に挟まらないようにしてください。



注意

トレイの上に物を置いたまま車いすで移動する

固定されていない物体による怪我

▶ 車いすで走行する際は、トレイの上に物を載せないでください。

⚠ 注意

介助者による不適切な取扱い

着脱可能な部分を保持して車いすを持ち上げることによる車いす・利用者の転倒

▶トレイを使って車いすを持ち上げないでください。

お知らせ

トレイへの過積載

使用者の不適切な使用による製品の破損

▶トレイに重量物を載せないでください。また、トレイの上に人が乗ったり、寄りかかったりしないでください。

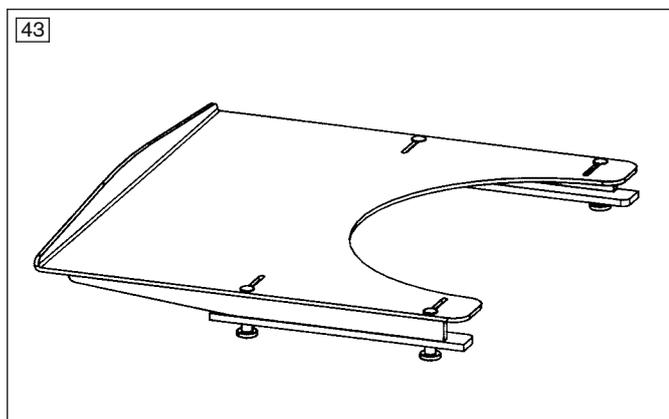
トレイは、食事や仕事、遊びなどの際に使用できます。透明な素材なので、視野を妨げず、足のポジションを認識できます。車等に積み込む際には、トレイを外す必要があります。

トレイの着脱

1)トレイをアームサポートの上にスライドさせます。

2)トレイをアームサポートから取り外します。

トレイが傾かないように、常にアームサポートとトレイが平行になるようにスライドして下さい。



6.18 分解と運搬

⚠ 注意

露出した挟み込み部分

不適切な取扱いによる手指等の挟み込み

▶車いすを折りたたむときは、指定された箇所のみを持ってください。

お知らせ

折りたたみ時の変形

荷重による変形や予期できない動き

▶折りたたんだ車いすの上に、重量物を載せないでください。

情報

▶車いすを車両で輸送する際は、必要に応じて車いすを折りたたんで、リヤホイールとフットサポートを取り外してください。

▶車いすを航空機で輸送する場合は、IATA（国際航空運送協会）の規則および関連する航空会社の規則に従ってください。フライトの数日前に利用する航空会社に連絡することをお勧めします。

車いすは乗用車で輸送できるように準備する必要があります。

- 1) フットパネルを折りたたみます (7.3 を参照)。取り外しも可能です。
- 2) クッションを取り外します。
- 3) 車いすが折りたたまれるまで座シートを引き上げます (図 44)
- 4) 固定ストラップでフレームを留めます (図 45)
- 5) 必要に応じてリヤホイールを取り外します (図 18)
- 6) 車いすを車内に置きます。



6.19 福祉車両での車いすの使用について

警告

車いすに乗った状態での車両への乗車

利用者の過失による事故により重傷を負う可能性があります

- ▶ 車いすの利用者が車両で移動する場合は、まず車両に設置されている座席を使用することをお勧めします。これが、事故発生時に利用者を守る唯一の方法です。
- ▶ メーカーが提供する安全装置と適切な固定装置及びユーザー用の安全装置が使用されている場合にのみ、本製品を車いす利用者を輸送するための車両用座席として使用できます。
- ▶ 車いすに複数人が乗った状態で使用しないでください。
- ▶ 車両用座席として使用する車いすは、バックサポートが座面と垂直になっている必要があります。
- ▶ 車両用座席として使用する場合は、取付可能な車いすのオプションに制限があります (6.19.3 参照)

警告

車いすの利用者が、車いすを座席として車両で移動する場合は、車いすのベルト等を安全装置として使用することは禁じられています

製品の不適切な使用により重傷を負う可能性があります

- ▶ いかなる場合にも、車いすに付属しているベルトやポジショニング機器を安全装置の一部として使用してはいけません。
- ▶ 製品に付属しているベルトやポジショニング機器、利用者への補助的なサポートのみを目的としていることに注意してください。

本製品は、ISO7176-19 によってテストされており、以下に定義される条件を満たした場合にのみ、車いす利用者を輸送するための車両の座席として使用できます。

輸送中、車いすは十分に固定されている必要があります。

メーカーは使用される固定システムについては責任を負いません。適応させる法的要因を満たし、利用者を含む製品の総重量に合わせて設計された固定システムのみが使用されていることを確認してください。

車いす利用者を輸送する車両で輸送される人の輸送重量は、ユーザー耐荷重に相当します。

6.19.1 必要な部品

車いす利用者の車両の座席として車いすを使用する場合は、ISO10542-1（または同等の試験基準にしたがって試験された）ベルトループが4本必要です。

6.19.2 車両内での製品の使用



警告

福祉車両内の不適切な位置で車いすを固定した場合に事故時に重傷を負う恐れがあります

- ▶福祉車両内の車いすの固定位置は、販売店の技術者によって決めてください
- ▶福祉車両内で車いすを固定する場合は、前向きに固定してください。
- ▶車いす側の固定点については、販売店の技術者に指示してください。



警告

輸送中の不十分な安全性

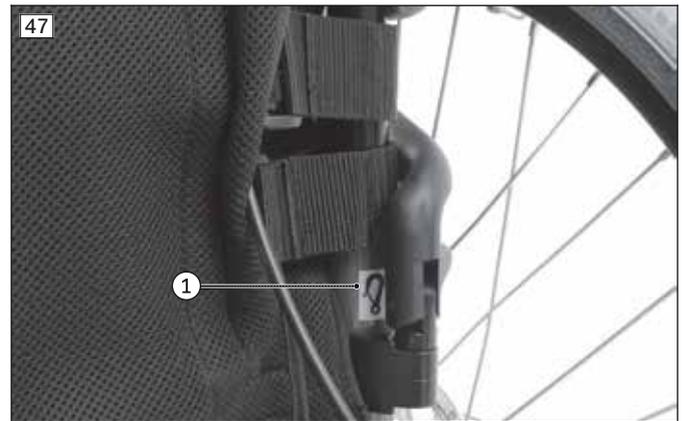
輸送方法における安全支持の不遵守による安全性の喪失

- ▶車いす利用者が福祉車両で移動する際の安全性を保つために、以下の支持に従ってください。
- ▶必要に応じて、以下の情報を車いす販売店の技術者に共有してください。

福祉車両内での車いすの固定は、車両側の車いす固定ベルトを取付けた4本のベルトループにより行われます。

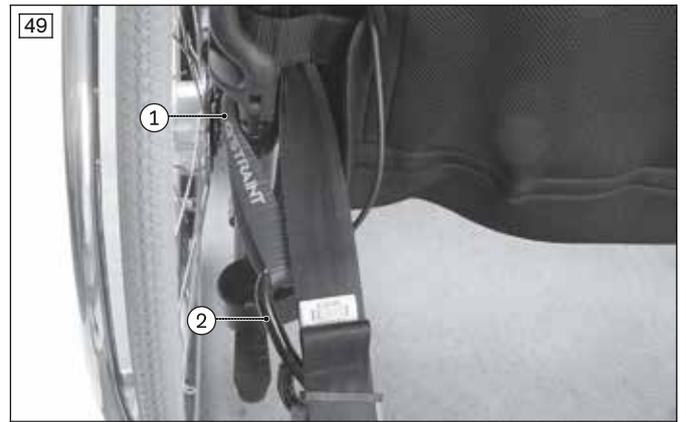
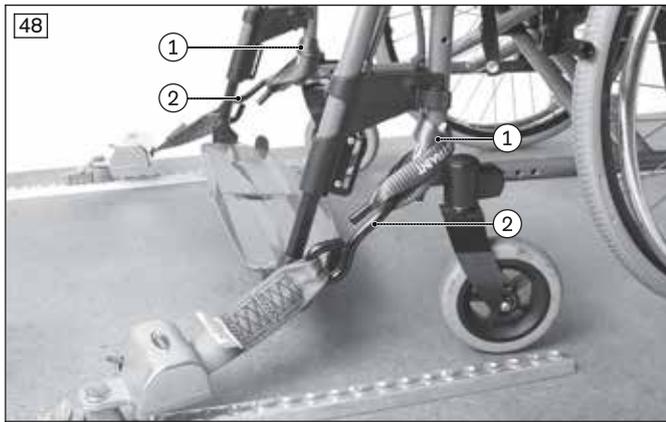
ベルトループの固定箇所はシールによって指示されています。ここに、ベルトループを巻き付けてください。

- ・ 前方の固定箇所は、両側のフロントフレームにあります（図 46-1）。
- ・ 後方の固定箇所は、本体フレームの両方の後側にあります（図 47-1）。



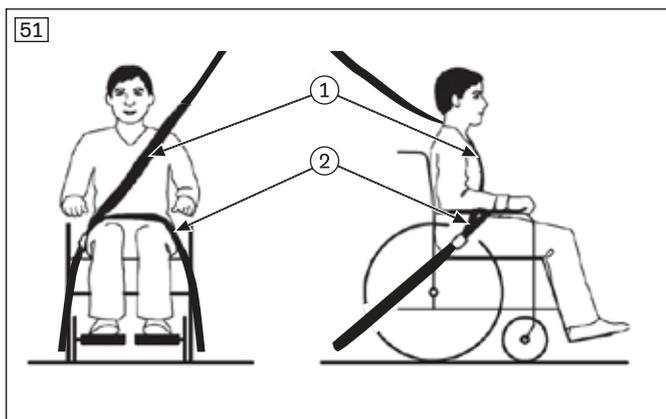
ベルトループの取付

- 1) 福祉車両内で車いすを固定します。
- 2) ブレーキでリヤホイールを固定します。
- 3) 前側の固定。フロントフレームの左右に、ベルトループを一つずつ通し、長さに応じてフレームに1回または2回巻き付けます（図 48-1）
- 4) 車両側のフックを、左右それぞれのベルトループに通します。（図 48-2）
- 5) 後方の固定。左右のフレームにベルトループを一つずつ通して巻き付けます（図 49-1）
- 6) 車両側のフックを、左右それぞれのベルトループに通します（図 49-2）
- 7) 車両側のフックのベルトをできるだけしっかりと締めてください（図 50）



福祉車両内で車いすに座る際の車いす利用者の安全に関する情報

- 車いす利用者の安全装置は、車両側のものを使用する必要があります。
- 車両側に、個人用の安全装置を取り付けることは許可されていません。車両側に備えられている3点式のシートベルトを使用してください。
- シートベルトは、利用者の体に沿わせて固定する必要があります。サイドパネルやリヤホイールの上側にシートベルトを通さないでください。
- 肩ベルトは、必ず利用の方を通るようにしてください。
- ベルトがねじれないようにしてください。

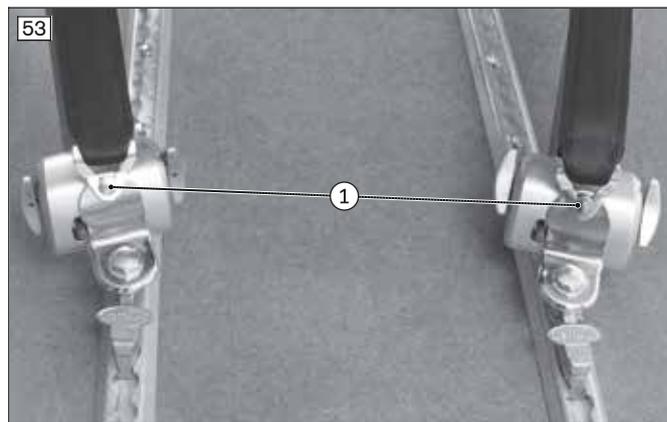


福祉車両内で車いすに座る際のシートベルトの設置

- 1) 腰用ベルトの両側を引き、サイドパネルの内側を通します (図 52)
- 2) 腰用ベルトの両端を車両側の固定ポイントにかけます。
- 3) 肩用ベルトをの下端を、腰用ベルトと同じ固定ポイントにかけます。

※腰用ベルトを通した後、適切に締めてください。

※両側の腰用ベルトは、サイドパネルと座クッションの間を通るようにしてください。



6.19.3 使用の制限

車いすの仕様により、福祉車両で車いすに座って移動することが認められない場合があります。



警告

福祉車両の不適切な使用

車いすを福祉車両の座席として使用すると、重傷を負う危険があります。

- ▶ オットーボックスは、下の表に示すオプションを付けた車いすを、福祉車両で座席として使用できる車いすとして認めていません。
- ▶ 福祉車両に設置されている、安全装置の付いた座席を使用してください。
- ▶ 福祉車両で車いす座席として使用する場合は、車いす販売店のお問合せ下さい。

オプション

杖入れ

角度調整機能付きバックサポート

背高 40cm 未満

26" リヤホイール

福祉車両内での利用が制限されるオプション



警告

特定の設定またはオプションの使用の際、取付の緩み等によって重傷を負う危険性があります。

- 車いすを福祉車両の座席として使用する際、下記のオプションは安全のために取り外すか、下記にしたがって使用してください。
- 取り外したオプションは社内で適切に保管・固定してください。
- 製品の特定の設定により、福祉車両内でのオプションの使用が制限されることに注意してください。

オプション※1	オプション（取付用金具を含む） を取り外すもの ※2	オプションに関する注意事項に準 ずるもの	使用上の注意に従ってくだ さい。
トレイ	●		
トランスポートホイール		●※3	
ラップベルト（車いす用）		●※4	
スポークプロテクター	●		
簡易電動ユニット ※5	●		●※6
特注加工されたオプション			●※7

※1 上記のオプションすべてが車いすに取付けられているわけではありません

※2 工具を使用せずに

※3 車いすにリヤホイールが装着されている場合は、取外す必要はありません。

※ 5 簡易電動ユニットは弊社ではテストしておりません。

※ 6 簡易電動ユニットの製造元が福祉車両内での使用を許可している場合は、同メーカーの支持に沿って使用してください。

※ 7 特注のオプションは、場合によっては福祉車両内での使用が禁止されることがあります。

※ 4 車両側のシートベルトの使用は必須ですが、ユーザーの姿勢保持用としては使用することが可能です。

6.20 お手入れ

注意

洗浄の不足または不適切な清掃による感染症による健康被害および不適切な取扱いによる破損

- ▶ 製品は定期的に清掃してください。
- ▶ 清掃後は、製品の動作を確認してください。

情報

製品の布部分（カバーなど）のラベルに記載されている洗濯方法に注意してください。

6.20.1 クリーニング

汚れの程度と使用頻度に応じて、少なくとも月 1 回、定期的に製品をクリーニングしてください。

6.20.1.1 手洗いによるクリーニング

- 1) 温水で薄めた中性洗剤を使用しパッドと座シート・背シートを洗浄します。
- 2) スポンジや柔らかいブラシで汚れを落とします。
- 3) きれいな水で十分にすすぎ、よく乾燥させてください。

クリーニングに関する重要な情報

- ・ プラスチック部品・フレーム部品、フレームとホイールは薄めた中性洗剤と湿った布を使用してクリーニングします。強力なクリーナーや溶剤、硬いブラシ等は使用しないでください。
- ・ 高圧洗浄機や強い水流でクリーニングしないでください。水が浸入すると腐食の原因となります。

6.20.1.2 ベルト／ストラップのクリーニング

メタルバックル付ベルトのクリーニング

情報

製品のクリーニングに関する推奨事項や取扱説明書の支持に従ってください。

- ・ メタルバックルが付いているベルトは、バックル内に水が入り込む可能性があるため、洗濯機で洗うことはできません。
- ・ ベルト・ストラップの汚れは、ぬるま湯で薄めた石鹼水（殺菌効果付）で軽くたたき、乾いた吸水性のある布で拭いてください。

プラスチックバックルが付いているベルトのクリーニング

モデルによっては、プラスチックバックル付きのベルトは、洗濯機で洗うこともできます。または乾いた吸水性のある布で浮いてください。

- ・ 洗浄後のベルトは自然乾燥させてください。
- ・ 取付ける前に、ベルトやパッドが完全に乾いていることを確認してください。
- ・ ベルトを直接熱（直射日光・ストーブ・ラジエーター等）に近づけないでください。
- ・ ベルトにアイロンをかけたり、漂白しないでください。

6.20.2 消毒

- 1) 消毒を行う前に、パッドおよびハンドルを十分に洗浄してください。
- 2) 車いすの全ての部分を、消毒剤で拭いてください。

消毒に関するその他の情報

複数の使用者が同じ車いすを使う場合には、都度消毒を行ってください。

消毒剤は、水ベースの無色の物を使ってください。また、消毒剤メーカーの使用説明書にしたがって使用してください。

7 メンテナンスと修理

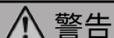


警告

不十分なメンテナンス

利用者の受傷及びメンテナンスの不履行による製品の損傷

- ▶利用者は、この項で説明されているメンテナンス作業のみを行ってください。その他のメンテナンスや修理は、販売店の技術者によって行ってください。
- ▶製品の機能・動作と安全性を確認するために、少なくとも年に1回のメンテナンスを行ってください。
- ▶身体寸法や体重が変化するユーザーや症状が変化する利用者は、少なくとも6か月に1回の製品検査・調整・整備を受けてください。



警告

不適切なメンテナンス

ボルト締結部の緩みによる使用者の重症

- ▶ボルトの締結が確実にされていることを定期的を確認してください。
- ▶ボルトの緩みや欠損が見つかった場合は、直ちに販売店に連絡してください。

- ・ 使用前に製品の機能を確認してください。
- ・ 部品やフレームの緩み・摩耗・曲がり、損傷、ひび割れなどの欠陥が認められた場合、また、車いすの挙動が急に不安定になったり操作性が急変した際も、直ちに製品の使用を止め、販売店に連絡してください。修理について販売店の技術者に依頼してください。
- ・ 一部のメンテナンスに限り、使用者が行うことができます。
- ・ 製品のメンテナンスを怠ると、製品の使用者が怪我をする恐れがあります。

7.1 メンテナンス間隔

以下の項目については、使用者または介助者が定期的を確認を行ってください。

項目	使用前（毎回）	毎月	3か月に1度
ブレーキの効き	●		
シートやバックサポートのたるみ		●	
フットサポートの安定性		●	
タイヤやキャストなど消耗品の摩耗		●	
ベアリングの汚れ		●	
ハンドリムの損傷		●	
タイヤの空気圧		●	
折りたたみ機構の摩耗		●	
リヤホイールのスポークの緩み		●	
ボルトの緩みや欠損の有無		●	
製品ラベルやマークの判読性			●

7.2 メンテナンス作業

製品の良好な状態を保つために、ある程度の技術スキルを持つ使用者や介助者が一部のメンテナンスを行うことができます。

- ・ ボルトの緩みや欠損の有無は、必ず定期的を確認してください。とくに新しい製品の使用開始直後や調整後は注意して確認してください。同じボルトが繰り返し緩む場合は、販売店に連絡してください。
- ・ 車いすの使用に伴い、キャスト軸やキャストフォークのボルトに汚れやごみ（ほこりや髪の毛）が溜まります。これにより操作性が悪くなる可能性があります。
- ・ 本製品は、リヤホイールにクイックリリースシャフト（着脱ハブ）を採用しています。スムーズな動作を維持するため、車軸や車軸受けに余分な汚れやごみなどが付着していないかどうか確認してください。クイックリリースシャフトには、樹脂の含まれていない軽いオイル（ミシン油）などが適しています。
- ・ 車いすが濡れた場合は、必ず拭いて乾かしてください。

7.3 修理



警告

誤った調整や修理により、使用者が怪我をする恐れがあります。

▶修理は販売店の技術者に依頼してください。

8 修理



警告

不十分なメンテナンス

利用者の受傷及びメンテナンスの不履行による製品の損傷

▶利用者は、この項で説明されているメンテナンス作業のみを行ってください。その他のメンテナンスや修理は、販売店の技術者によって行ってください。

▶製品の機能・動作と安全性を確認するために、少なくとも年に1回のメンテナンスを行ってください。

▶身体寸法や体重が変化するユーザーや症状が変化する利用者は、少なくとも6か月に1回の製品検査・調整・整備を受けてください。

8.1 廃棄に関する情報

製品を廃棄する場合は、購入された販売店に依頼してください。

製品や付属品はそれぞれの国の法規制にしたがって適切に廃棄してください。

9 法的情報

全ての法的条件は、使用する国のそれぞれの国内法に準拠して下さい。

9.1 責任

メーカーは、製品がこの文書に記載されている説明および指示にしたがって使用したばあいにも、その責任を負います。メーカーは、本文に記載されている情報を無視した製品の不適切な使用や改造によって生じる損害については責任を負いません。

9.2 保証

保証条件の詳細については、オットーボック・ジャパン株式会社、またはこの製品を販売・調整した販売店の担当者に問い合わせてください。

9.3 耐用年数

本製品の予想耐用年数は4年です。

製品の設計・製造及び使用目的の要件は、予想される耐用年数に基づいています。これらには、製品の機能性と安全性を確保するメンテナンスの要件も含まれます。

本書の内容やメンテナンス間隔を遵守せずに予想耐用年数を超過して製品を使用すると、破損や怪我のリスクが増加します。

10 テクニカルデータ

情報

▶下記のテクニカルデータの多くは mm 単位で表示されています。特に指定が無い限り、mm 単位での調整は不可で、約 1cm 単位での調整となります。

▶また、それぞれの値には、± 10mm および ± 2°の誤差を含みます。

情報

▶下記のテクニカルデータは、理論上の数値となります。

▶表示されている全ての調整範囲が、全ての車いすの仕様で適用できるわけではありません。仕様により調整範囲が制限される場合があります。

▶テクニカルデータや仕様については、予告なく変更する場合があります。

	アバンギャルド XXL2
耐荷重 (kg)	180
輸送重量 (kg) *1	11.3 ~ (フレーム) 1.3 ~ (24 "ホイール)
最低空気圧 (bar)*2	7 bar
タイヤの種類	エアタイヤ / ノンパンクタイヤ
キャスターの種類	ソリッドラバー、ソフトラバー、エア
登坂可能範囲 (° / %) *3,*4,*5	7 / 12.4

*1 製品重量はサイズや選択したオプションによって変動します。

*2 タイヤによって異なります。各タイヤ側面の表記をご確認ください。

*3 ブレーキや停車も、この数値に従ってください。

*4 全ての方向に対して適応されます。

*5 ISO^7176-1 に準拠しています。

テクニカルデータ

	最小	最大
重量 (kg) *1	14(*2)	17(*2)
全長 (mm)	790	1140
全幅 (mm)	695	850
全長 (mm : 折りたたみ時)	790	1140
幅 (mm : 折りたたみ時)	320	380
高さ (mm : 折りたたみ時)	700	1060
最大座角 (°)	15	
座奥行 (mm)	400	560
座幅 (mm)	460	620
前座高 (mm)	460	530
後座高 (mm)	410	530
バックサポート角度 (°)	-9	+15
背高 (mm)	250	500
フットサポート高さ (mm)	320	550(*3)
アームサポート高さ (mm)	245	340
ハンドリム直径 (mm)	470	560
最小回転半径,*1)	550	740

*1 ISO 7176-1 に準拠しています

*2 重量は、選択したサイズやオプションによって異なります。

*3 地面とのクリアランスによる制限があります。シートの高さやフットパネルおよびフットパネルの角度によって異なります。

使用環境

温度と相対湿度	
使用時の温度 <°C>	-10- +40
輸送時・保管時の温度 <°C>	-10- +40
湿度 <%>	45-85 (結露しないこと)

お問い合わせ先

掲載内容の無断使用禁止

掲載されている内容、文章、画像については、無断で使用もしくは転載することを禁止します。

輸入販売元

オットーボック・ジャパン株式会社 www.ottobock.com/ja-jp

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-9-9 野村不動産芝大門ビル 4F